

修了生アンケート集計

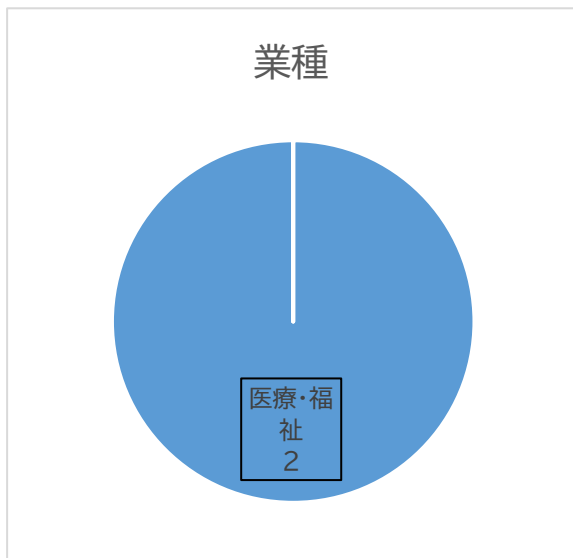
2023年6月1日発送 3名(対象は2022年3月修了生)

2023年6月20日締切

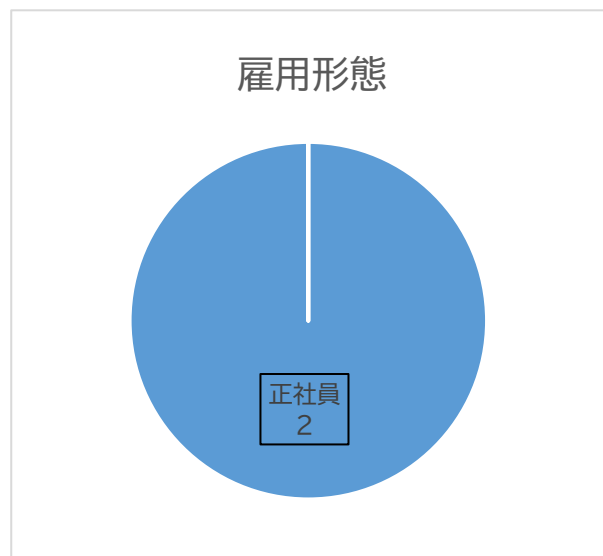
	発送数	宛先不明	回答数	回答率
障害心理学専攻	3	0	2	66.6%
計	3	0	2	66.6%

有効配達6先に対し回答件数4件 回答率66.6%

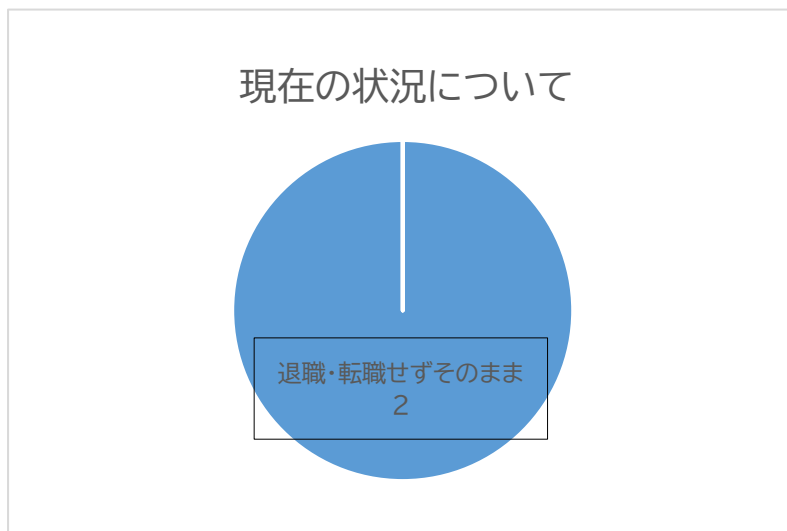
Q2-① 勤務先、進学先



Q2-② 雇用形態



Q2-③ 退職、転職等

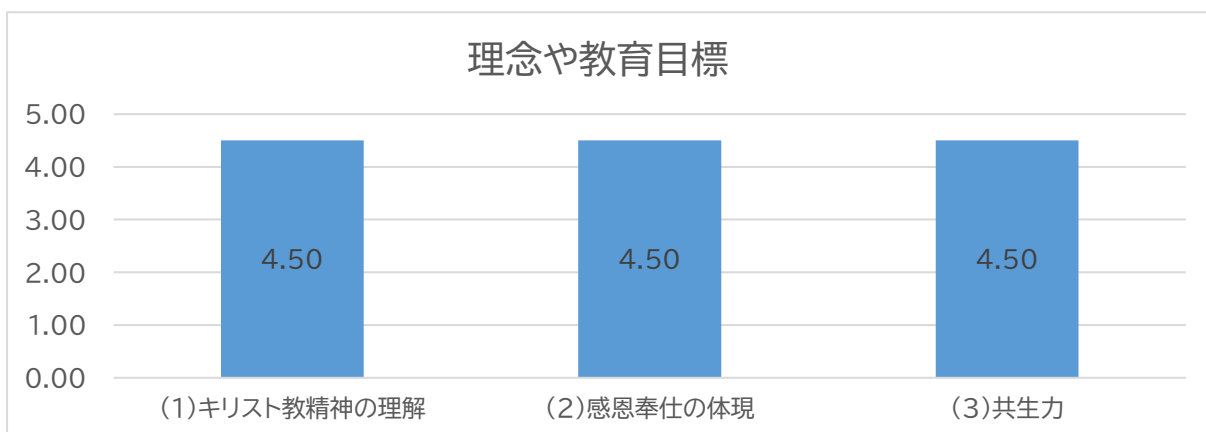


Q3-① 在籍時の学習成果がどのくらい身につけているか

- 5 身に付いている 4 概ね身に付いている 3 少しは身に付いている
 2 あまり身に付いていない 1 身に付いていない

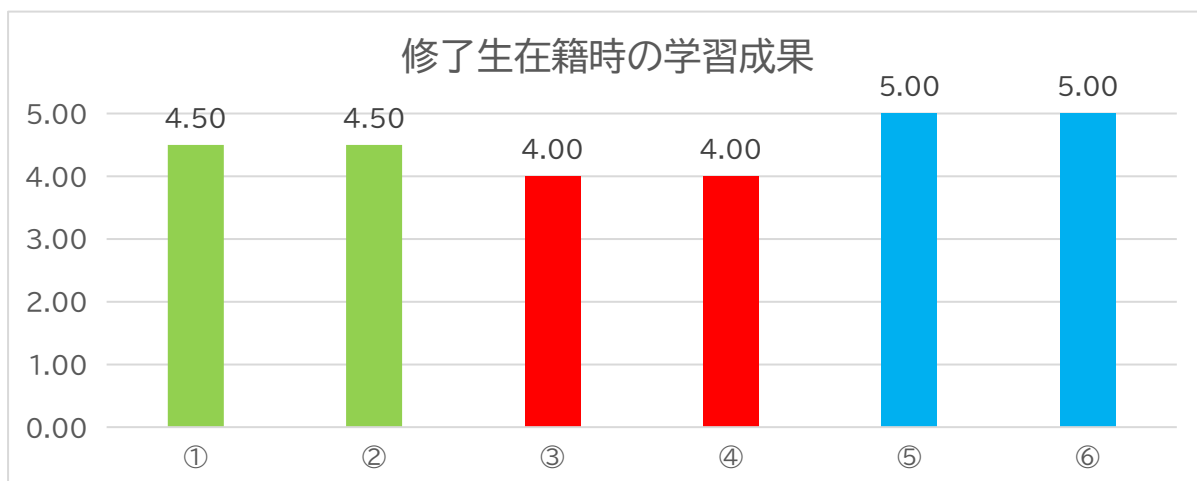
(1) 本学の理念や教育目標について

	項目	内容
(1)	キリスト教精神の理解	キリスト教精神やそれに基づく感恩奉仕の精神を理解している
(2)	感恩奉仕の体現	ボランティア精神と倫理観を持ち、社会で自分の役割を果たしている
(3)	共生力	社会の動向に関心を持ち、また異なる文化や他者を理解し、その社会・文化の中で他者とともに協同することができる

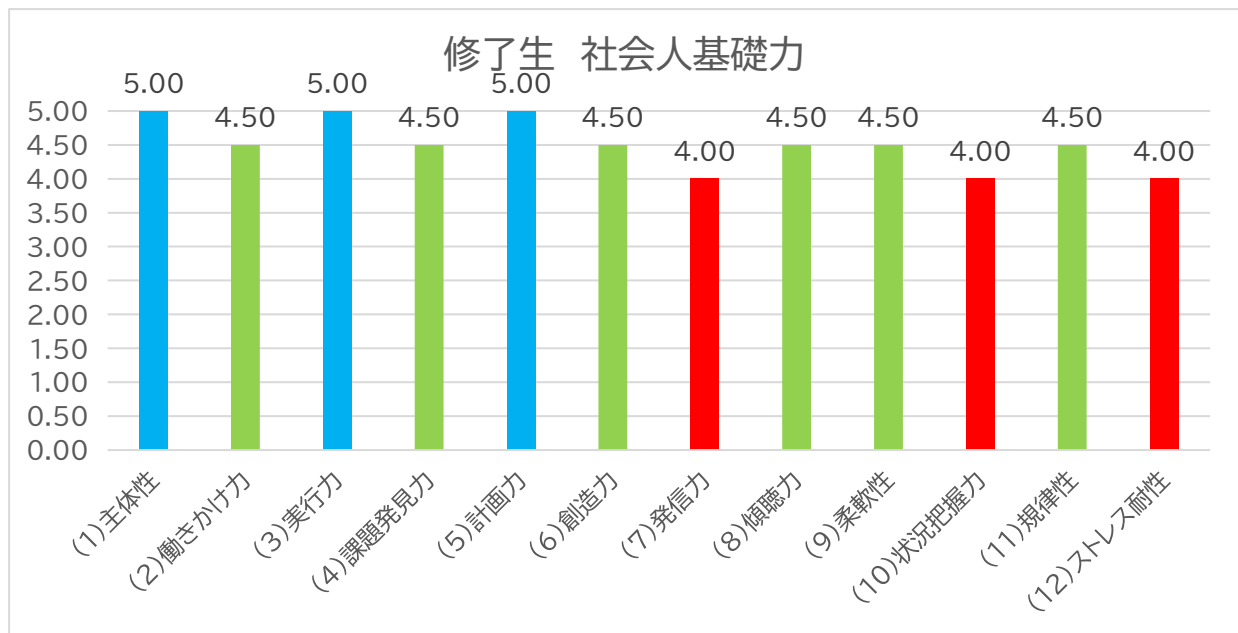


(2) 学習成果について

①	発達障害のリスクのある乳幼児の心理査定、就学前までの支援ができる能力
②	発達障害のある(あるいは疑いのある)幼児・児童・生徒の特別支援教育ができる能力
③	発達障害のある生徒の移行支援・就労支援ができる能力
④	学校現場で起きる不登校、いじめ、非行や神経症などの様々な問題に適切に対応するとともに、こうした問題の予防教育ができる能力
⑤	医療や福祉などの現場において、様々な情緒的問題を抱える人たちへの心理的支援ができる能力
⑥	学校をはじめとする障害者を包含する社会において、意識調査や啓発活動等ができる能力

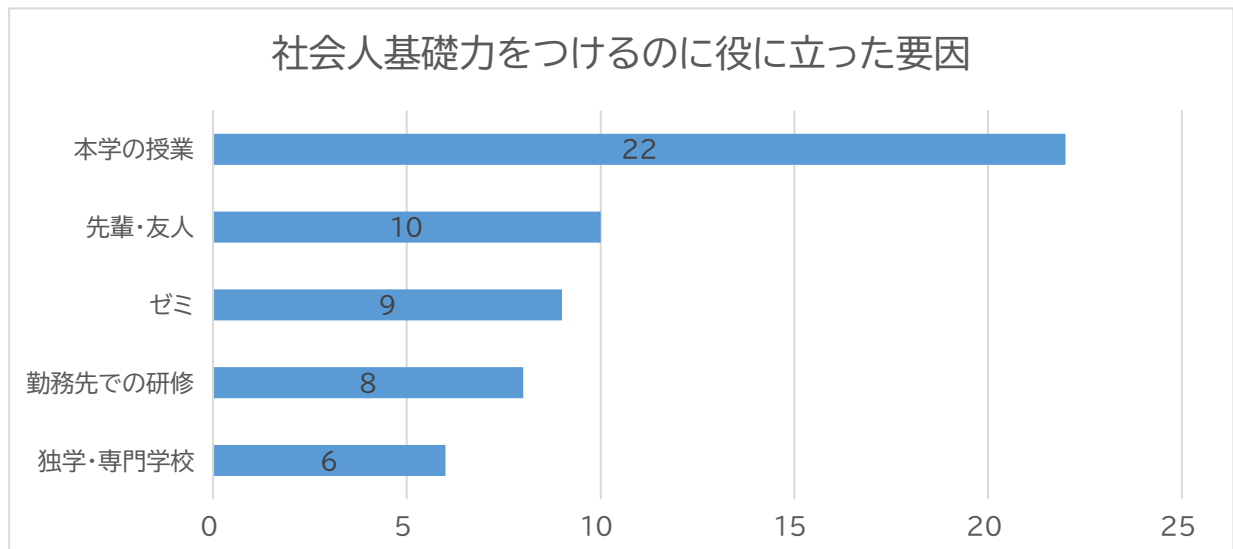


Q4-1 社会人基礎力を現在どの程度身に付けているか



Q4-2 社会人基礎力を身に付けるのに何が役に立ったのか

- 1 本学の授業 2 ゼミ 3 インターンシップ 4 留学・異文化 5 ボランティア活動
 6 サークル活動 7 アルバイト 8 先輩・友人 9 自治会 10 独学・専門学校
 11 学内外のイベント 12 勤務先での研修



Q4-3 実社会で必要と思われる社会人基礎力を書いてください

順位	項目
1	実行力 柔軟性 ストレス耐性

Q4-4 社会人基礎力以外で、大学時代に身に付けておけば良かったことや、在學生に身に付けて欲しい能力や資質をあげてください

回答なし

Q5 仕事をする上での悩み、課題やそれを誰に相談していますか

・直属の上司、同部署の同僚に相談しています。

Q6 大学院時代に有意義だったと思う授業はありましたか

・マインドフルネス
・心理療法

Q7 本学大学院の教育についてお気づきの点がありましたらご記入ください。

・生徒の意見や考えを肯定的に受け止めてくれる姿勢が自己肯定感を高めてくれたように感じた。

Q8 今後新たにどのような教育が必要になってきますか

回答なし

Q9 本学全般にわたってのご意見はありませんか

回答なし

*修了生アンケートの所感

2022年3月修了生は全て社会人枠であり、全員就労経験者である。そのため、夜間開講の学びの場における学生同士の交流が1学年のみに限られることやコロナ禍などによるオンライン授業なども併存し、学生生活にいくらかの影響があったのではないかと懸念している。

本年度も障害心理学になんらかの関わりのある分野で働いている学生が多く、このような状況を踏まえ、結果についてコメントをする。

1. 在学時の学習成果がどのくらい身につくについて活かされているか。

本学の理念や教育目標について、「キリスト教精神の理解」及び「感恩奉仕の体現」の学習成果は昨年度に比べ伸びている。昨年のアンケート調査の低い結果を受け、学生全員にオンラインによる教育を行った。きちんと伝達することで、キリスト教精神の理解は2.8から4.5へ、感恩奉仕の体現も3.6から4.5へと上昇している。共生力についても4.5という評価が得られた。

2. 社会人基礎力

社会人基礎力は全て4.0以上である。元々社会人であり、既に十分な基礎力が身につけているのであるが、更にその力を高めることができた要因は、昨年度同様「本学の授業」が他を大きく引き離して1位であった。授業を受けることで多くの刺激があり、専門家としての在り方にも示唆が得られたと考える。

3. 今後に向けて

2023年度は公認心理師養成カリキュラムの初めての修了生が誕生する。夜間の大学とは全く異なる課程で学んでいる学生にも、これまでに培ってきた障害心理学をベースにした実践的な心理臨床の専門家としての基礎力が身につくよう、教育実践を行っていきたい。